

# 野菜の展望

今月の野菜は、7～8月の異常高温、また旧盆以降の長雨・曇天の影響で生育不良となった品目も多く見られ、初旬は不安定な入荷になるものと懸念されますが、中旬以降は天候回復となり出荷量は増加すると思われれます。

根菜類の大根は北海道産を主力として岐阜・青森産の高冷地からの入荷となり、月末からは石川産の入荷も見込まれます。人参は北海道産主力に青森産高冷地物の入荷があります。前年は不作であったものの、本年は平年並の作が予想されます。蓮根・甘藷については本年も平年並の入荷を見込んでおり、蓮根は石川産中心に徳島・愛知産、甘藷も石川産主力に関東産を併せての入荷となります。里芋は、大阪・宮崎産の入荷で、両産地ともに順調予想となっております。

葉洋茎菜類の白菜は、長野産高冷地主体に準高冷地物も加わりますが、前半の入荷量は少ないものと見込まれます。キャベツは長野・群馬産の入荷で、適度な降雨もあって概ね順調な入荷が見込まれます。葱は石川産主体に群馬・埼玉・北海道産の入荷となりますが、石川産は稲刈り作業の影響もあり不安定な入荷になると思われれます。ほうれん草は岐阜産に加え、石川・北海道・群馬・茨城産の入荷があり、気温の低下とともに入荷量は増量するものと思われれます。レタスは長野産の入荷で、上旬は作型の切り替わり時期を迎えて、やや入荷減少となりますが、中旬以降は比較的安定した入荷になると思われれます。ブロッコリーは北海道・長野産の入荷ですが、高温が大きく影響し、今後の出回り量は少ないと予想されます。石川産は下旬より入荷が始まります。

果菜類の胡瓜は、福島・山形・長野産に石川・群馬産抑制物が加わります。中旬には抑制物の入荷量が増加する見込みです。茄子類は石川・群馬・山形産の入荷となり、入荷量は前年以上になると思われれます。トマトは石川産主体に北海道・岐阜産の入荷があり、石川産は日々増量となり、下旬にピークを迎える見通しです。

土物類の馬鈴薯・玉葱は、北海道からの入荷となります。玉葱はやや小玉傾向と見られ、前年から比べるとかなりの安値になると予想されます。長芋は北海道・青森産の入荷で、両産地ともに終盤を迎えているため、在庫量は平年に比べてかなり少なく、安値傾向となっております。牛蒡は青森産主体に群馬産の入荷で、中旬からは青森産が増量となり安定出荷が期待されます。

菌茸類では松茸が中国・メキシコ産等の輸入物主体に、中旬よりカナダ産の入荷となり、国産については岩手・長野からの入荷があります。生椎茸は石川産主力の入荷で、菌床ブロックの入れ替えも終了し、夜温の低下とともに順調な入荷となります。なめこ・えのき・しめじ・舞茸・エリンギ等は、需要期を迎えることから、各産地ともに本格生産に入り順調な入荷になると思われれます。

9月はいよいよ秋本番を迎えることから多彩な販売企画立案の上、拡販をお願い致します。

《野菜第一部 田中昭市》

# 果実の展望

実りの秋となり、秋果実の本格的な出荷時期を迎えようとしています。今月の果実は、日本列島全域が猛暑の影響を受けており、果実全般において小玉傾向・数量不足が心配されます。

温室みかんは愛知・佐賀メインに福岡産の入荷となりますが、着色が進まず、下位等級品が多い見込みで、M・L中心の入荷になると予想されます。少加温（グリーンハウス）は愛知産主力に佐賀産の入荷となります。露地みかんは連休前後より和歌山・福岡産の入荷スタートとなりますが、高温の影響により小玉傾向と見られます。

梨はJA金沢・JA松任・JA加賀からの県内産主力の入荷となります。上旬は幸水、下旬は豊水、月末からは20世紀・あきづき・南水等の入荷となります。

ぶどうは多品種のものが出回ります。長野・山梨産を主力とした巨峰に、岡山産アレキサンドリアや山梨産のネオマスカット・G.ピオーネ・ベリーA・甲斐路・ロザリオ、山形産のデラウェア等で、いずれも順調な入荷になると思われます。又、石川産ルビーロマンも前年より量も増加し下旬まで入荷があります。

りんごは長野・山形産つがる主力に青森からの入荷があるものの、高温の影響により着色の遅れ等が予想されます。

柿は中旬より福岡・愛知・岐阜・和歌山産の入荷となり、西村・伊豆・平核無・筆柿といった多品種の入荷が見込まれるものの、他の果実同様に高温の影響による出遅れが予想されます。

瓜類は静岡産主力に山形・茨城産アールスの入荷です。静岡産は生産者の減少により、前年よりも入荷量の減少が予想されます。北海道産については赤肉・青肉メロンともに5玉メインの入荷見込みで、中旬からは石川アールスの入荷がスタートします。

いちじくは、愛知産の露地物主力に地元の押水産が加わり順調な入荷となりそうです。

栗は石川・岐阜・熊本・愛媛の出回りとなりますが、出遅れ気味で小玉傾向での入荷が予想されます。

輸入果実ではバナナはフィリピン・南米産からの順調な入荷が見込まれます。オレンジはオーストラリア産ネーブルと南アフリカ産バレンシア中心に安定した入荷となります。グレープフルーツは南アフリカ産のスタールビー種・ホワイト種の入荷で前年並の入荷と見られます。レモンはチリ産ですが下旬には、ほぼ終了の予定となっています。パイナップルはゴールデン・スウィーティオともに順調な入荷が予想されます。ハネジューメロンはカリフォルニア産主力の入荷で、これからピークを迎える時期となります。また季節商材としては、カリフォルニア産ザクロや韓国産生むき栗の出回りです。その他にアメリカ産ぶどう等のトロピカルフルーツも順調な入荷が予定されています。

涼しい秋風が感じられ食欲の秋を迎えるにあたり、食卓に多くの果物が並ぶ様、今月も販売に御協力の程お願い申し上げます。

《果実部 大西 信哉》